

第10回 みんなの会次第

令和 元年 5月 8日

コミュニティ f

参加者：市民 8名、行政 4名、事業者 2名、アドバイザー 1名

「開始時のビオトープはどのような状態がいいか決めよう」（19：00～20：55）

ビオトープの開始時についてご意見をお願いします

若月さん（行政）のご説明（添付の図を見ながら）

森林環境創造ゾーン、屋外啓発ゾーンは市の発注によって行います。

屋外啓発ゾーンは青葉台地区とのやりとりにより、お約束していることがあるので、お任せいただきたい。植栽については変更の余地があります。屋外啓発ゾーンは東屋、遊具、畑（食品リサイクル、ダックス君太君等利用のたい肥）、芝生広場、トイレ、駐車場があります。シンボルツリーはくすのき。遊具、ベンチはリサイクル材を使ったものです。

森林環境創造ゾーンは常葉大学の山田辰美先生監修により事業者が設計しています。モリアオガエルの池は、環境アセスメントの結果希少な生物であるとされたので、保存するために池を設置している。環境アセスメントの関係では、オオタカの食料として岩場にトカゲがいるように予定しています。植栽については決定していませんが、園芸種ではなく在来ものを選びました。園道（スコリア敷き）、池については設計のままにします。大きく変えることは難しいです。薪炭林エリアはドングリの木を 3 種類ほど植え、落葉樹エリアは、開園後植樹していく（点線で囲った範囲）、大きさは中木（1.5～2m）程度で、10年程度で完成するイメージです。池の水は、井戸の水を少量かけ流しとします（枯れ沢のイメージ）。湿地は 10cm 程度の浅い池を設置しました。水場としては沢、池、湿地です。全て最終的には調整池に流し込みます（暗渠なので、提示した図では分かりにくいですが）。

山田高先生（市民）

完成したものを最初からつくる必要はないのではないかと。高木、低木、下草がそろっているものではなく、できてきたものをどう利用するかに重点をおいて考えたい。

学習センターに来た人がビオトープ内で活動する場所があるとよい。そのためには指導員が必要である。私のビオトープのイメージは大淵地区の自然の一角である。

山田辰美先生への相談の結果できたものならば、一定のレベルにあるが、利用者の目線から既に自分も相談を行った。「下草が茂り過ぎると見た目はいいが入ることができない。道を入りやすいようにした方がいい」など、利用しやすく、富士山南麓の自然を再現できるようにしたい。自然観察において感動（おもしろい！と思える）ものを選びたい。例えば、野生ランといった貴重なものではなく、普通の山野草や樹木の中に自然を学べるものが多い。

管理の継続ができていない場所がある、との意見がでた。

私は原田小学校のせせらぎ園、吉永第小学校のビオトープに現在もかかわりをもっている。これは山に行ってとってきた植栽である。私の考えではビオトープにあれこれ植えすぎると、始終木を切ることになる。また、教職員に管理をまかせると手が回らない。そして指導する人がいないと利用されないことになる。木で作った橋は改修に金のかかるものになる。

利用のためには

- ① 指導員
 - ② 整備・改修（費用がかかる、木の橋は腐る、木は成長する）
 - ③ 市民が参加する仕組み
- が必要であるとする。

山田高先生からの回答

① 指導役をやる気はあります。観察会はできたその日からやります。自然の循環というのは岩石、シダ、雑草等育っていく中にある。私の気持ちは毎週やりたい。時間帯を今決めるのは難しいが、平日は子供やお年寄りが対象です。

毎月10日に観察会をしている実績があり、毎月5日には須津川で観察会、こどもの国観察会も毎月行っている。

毎月1回は土日に観察会をしたい。この自然の中で観察会をしたい。

「草が生えた、だから蚊が出てきた。」「芽生えからの観察。」「植物の種類の観察。」全てテーマになる。

ある程度計画的に植えていくことも大事だが、「みんなで勉強がてら植えていく。自然のものを持ち寄って植えてみよう。」と考えるのかよい。指導体制を引き継いでいくことが大事。

② 選択的除草くらいかな。管理業務は川崎重工です（若月さん）。

④ 市民が参加する仕組み。

指定管理者から頼まれれば、富士自然観察の会で調整をしながら、指導員等だしていきたい。市民の中からの指導員の育成も、指定管理者から依頼があればできる限り協力していきたい。

実のなる木はありますか、との意見がでた。

森林環境創造ゾーン、ドングリ（種類を多く）。

屋外啓発ゾーンでは、ブルーベリー、グミ、紅葉いちごなど。畑で野菜をつくるのはいい。

農業体験も含めて。農機具を入れる倉庫あり。駐車場から近い、水道の確保。調理室でできた生ごみをたい肥にして、利用するなどが考えられる。（いきいきファーム。EM ぼかし）。

ダックスくんた君。) 管理はクリーン工房。

また、看板、順路案内板、植栽の説明板についての意見がでた。

案内看板はトイレ北東側に西向き、日焼けしない向きにした方がよい。ビオトープ内には看板はないが、手作りで更新しやすいものにしたらどうか。オープン後に必要ならば設置していく。

まとめとして、

ビオトープ（森林環境創造ゾーン）の開始時状態は、市の計画した通りでよく、利用しながら手作り看板の設置や観察会など、指定管理者が中心となり、自然観察の会協力のもと進めていく。植樹について、山田高先生に相談しながら進めていく。

公園の部分(屋外啓発ゾーン)も今後の植樹については、山田高先生に相談しながら進めていく。

他に、

環境啓発棟周りの植栽にももの申したい、との意見があった。

芝桜は管理が容易ではない。もっとメンテナンスがしやすく、四季折々の花を咲かせる方法がある。

行政からの回答として、事業者のほうで設計はすんでいます。後日説明させていただきます。設計施工付の一括発注です。

(3) 市事業の今年度のイメージ (20:55~21:00)

循環啓発棟の愛称募集（公募、選定方法）、ボランティア講座、周知方法、これまでの意見の整理をしていきたい。